

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	3790300077
法人名	有限会社エイム
事業所名	ホームすみれ
所在地	香川県坂出市川津町字東山田5638番地15 (電話)0877-45-1877

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年8月5日	評価決定日	平成21年9月7日

【情報提供票より】(21年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要(8月5日現在)

開設年月日	昭和(平成)19年9月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月5日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.2歳	最低	73歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	回生病院 大塚歯科医院 伊藤内科・消化器科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、讃岐富士の麓で見晴らしがよく、坂出が一望できる環境である。職員は地域の中で利用者一人ひとりの生活と笑顔を大切に、「安心・笑顔」を理念に利用者の「出ること」で生活を楽しめる工夫をしている。そのため毎日の生活で、料理・洗濯・掃除を利用者全員で協力し、お互いが支えあい、助け合う事により寂しさや不安が軽減され充実した生活が送れている。今までの生活リズムを大切に作る雰囲気作り、心配りがうかがえる。管理者は本年4月からの異動であるが、管理・運営面でも一気に大きなことでなくても、小さなことから利用者本位に認知症の本質を真剣に考えている。また、職員とともに考え、サービスの向上につなげたいという力強い信念がうかがえるので今後に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>意見箱を設置したり、理念に地域密着型サービスの役割を目指した内容を追加するなど改善課題に対し職員で話し合い改善努力している。改善課題に取り組むことで、職員の意識が高揚し、サービスの質向上に期待できる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で昨年の問題点や改善点を考慮して今年の自己評価について話し合い、共通理解を代表者がまとめ最後には全職員で見直し、サービスの振り返りにつなげた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議には坂出市の高齢者課、民生委員・児童委員、家族代表、事業所代表、管理者等が参加している。会議では、入居者状況、行事や外部評価の報告や運営面での課題について意見交換し、意見を運営面に反映している。地元代表や家族代表が積極的に参加するよう呼びかけの工夫を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、毎月一回ホーム便りや行事の写真、金銭出納、生活状態などを送付し、体調の異変や緊急時には電話、FAXで連絡するなど家族の不安軽減につなげている。家族の要望などを受けるための意見箱も設置している。家族の面会時に苦情や、要望を聞き入れたり、苦情相談窓口を説明するなど機会をつくり、運営面に反映させる努力がうかがえる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域ではお花、野菜、果物などをいただいたり、散歩時に挨拶をかわすなど、いい関係が出来つつある。ホームの行事にも招待してグループホームの理解と地域の連携を深め、この機会に自治会の代表者や地元の有力者の協力がより得られる努力に期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の一人ひとりの生活と、生活の中で笑顔を大切にして「安心・笑顔」を当ホームの理念にしているが、今回個人の日常生活を通じ地域社会での交流を図ることを追加、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	立場や経験に関わらず、職員個々が理念を理解できるよう申し送りや職員の研修会でも確認している。日々の実践の中でケアに向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	創設2年目になり自治会の加入を希望したが、地域への入会は難しい。しかし地元の活動や地域住民との体操教室などには参加している。	○	近所の方から野菜や果物を頂いたり、良い関係ができていくので、今後ホームの行事にも招待したり、ホーム便り(情報)を配布するなどして地域に馴染む努力を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価・今年の自己評価とも職員に周知している。改善事項などありのままを受け止め「できるところからやっつけていこう」と話し合い、今後の事業所の質の向上・確保に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは、坂出市高齢化職員、民生委員、利用者家族代表、ホーム代表者、管理者で構成している。情報、行事・外部評価報告や意見交換から質の向上に努力している。	○	メンバーの参加が少ない傾向にあるようなので、地域の代表者が積極的に参加してもらえる呼びかけが望まれる。また地域の事業所としての理解が得られ、そこでの意見をサービス向上に活かす努力と工夫に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に連携を密にして、事業所の現場の実情を報告し、指導を受ける機会をつくり質の向上に向け努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回、ホーム内の生活状況、健康状況、金銭出納状況などをホーム便りにして個人の活動状況の写真を同封し郵便で報告している。頻回に面会に来られる方にはその都度口頭で報告している。また緊急時は電話や昼間不在がちの家族にはFAX等でも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時重要事項説明時、サービス内容の苦情について事業所の相談窓口や外部の相談窓口について説明したり、意見箱を設置するなど不満、苦情を表せる機会を設けている。また家族の面会時には、職員と会話が持てるよう心がけており、意見などに関しその都度報告し、話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員と利用者との馴染みの関係を重視しており、職員が離職しないよう十分話し合い利用者にとって環境が大きく変化しないよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会にも参加できるように配慮している。利用者に必要な介護技術の基本や認知症についてなど職員の能力に応じた指導や、通常の業務の中でシフトの組み合わせによりほかの職員から学べる工夫をしている。しかし職員の習熟度などに応じた学習の計画的確保までには至っていないので今後期待したい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流や連携が質の向上に大切であることを管理者は認識している。職員育成に役立つ実践的な交流や連携を工夫するまでには至っていない。	○	管理者や職員が、地域や他の同業者と交流する機会をつくり、勉強会や相互評価など日々のサービスに活かされる工夫に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、家族と一緒に事業所へ事前に見学に来てもらっている。職員は利用者と常にコミュニケーションが取れるよう配慮し、必要に応じて家族の協力も得て一人ひとりの性格に配慮し、雰囲気に馴染め生活を送れるような工夫がうかがえる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの日常生活では利用者の出きることは見守り、手を出し過ぎないように自助の努力を重視している。利用者からは昔からの料理の作り方、昔のしきたり、野菜の作り方、真田網みなど教えてもらったりして支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生活歴や希望、不安などについて家族からも極力意見や要望を聞き把握している。表現できず問題があれば背景に何が合ったかなど関係者が本人本意に話し合い、全職員に周知・徹底して職員が共通理解の下に共有できるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・職員から十分に情報が得られるように話し合い、月一回カンファレンスで利用者がその人らしく活かせるよう計画については、本人、家族に説明し、同意を得て介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員間の意見を聞き3カ月に一回の見直しを行っている。しかし、状態の急変があれば直ちに会議を開き新たに計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望、急な外出などにも臨機応変な対応がうかがえる。	○	認知症の対応に家族が安心して暮らせる多様な支援が柔軟に行えるよう日々の変化する状況の中での工夫を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族から了承を得たかかりつけ医にお願いしており、定期的に受診したり、必要時や隔週に往診がある。また、協力医療機関(総合病院含む)と協定書を結んでおり適切な医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期については入居時に事業所の医療的対応について説明した上で家族からの希望を聞いている。また、家族とは要所での話し合いを行っている。昨年、家族の希望で看取った利用者もいる。	○	今後重度化した時の終末期のあり方、職員の対応について、出来るだけ早期(入居時)から本人、家族、かかりつけ医等の関係者との話し合いや連携、方針の統一を図ることに期待したい。また、管理者は本人、家族の意向が変化することも考え繰り返し話し合ったり定期的に意見交換をしたいと考えているので今後期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや対応が行われている。記録等には関係者以外手に取れない場所にて保管し管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全職員が利用者の個別ケアの重要性を理解しており、利用者一人ひとりの生活のリズムや利用者のできる力、その日にしたいことを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の声かけにより利用者全員がそれぞれの力を活かし食事準備に参加したり、配膳、下膳等も自主的に手伝っている。食事やおやつも皆で味わい、楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	行事以外の曜日の指定はなく、午後自由な時間に入浴できる。介助の必要な利用者には、羞恥心、恐怖心などに配慮しながら、安心して入浴が楽しめるよう支援している。また希望があれば、自由な入浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や日々の会話の中から得意分野を引き出している。職員は先入感にとらわれることなく利用者一人ひとりの役割や楽しみごとを作り出すよう働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買出しは利用者へ声掛けをして外出を積極的に支援している。要望に応じて、散歩や回転寿司など外食にも出向いている。また外出困難な人にも車いすを使ってスーパーへ行くなど支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の気持ちに立って、外出したい時には出られるような配慮をしているが、事業所が傾斜地にあり環境的に危険なため常に開放ではない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火計画により年一回昼間の避難訓練をしている。職員の緊急時の対応や連絡法を消防署の協力を得て指導、助言をあおいでいる。夜間想定訓練や地域住民の協力体制を築くまでには至っていないので今後に期待したい。	○	昨年は一回防火訓練を計画マニュアルに沿って実施しているが、出来れば年二回の災害訓練も含め地元の協力の下で実施が望まれる。また、地域住民との協力体制を構築する努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、栄養・カロリー計算をしたメニューであり、食事の水分摂取量は観察して個々の記録帳に記載し、状態の変化に気配りをしている。また各食事ごとに必要な食事量、水分量が摂取できるよう職員が声かけして支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の感覚から季節の花を生けたり花の鉢物をおいて季節感を出したり、季節ごとに装飾品を替えたり、共有スペースにあるテレビの音量にも心配りがある。眩しい紫外線対策にはレースのカーテンでの工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や生活用品、趣味の小物を持ってきてもらえるよう、家族の協力を得ながら、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。		